

## 009 森ゆり子家文書と目録作成について

1 本史料「森ゆり子家文書」は、代々須坂藩士を勤めた森家に伝わる史料を、現当主の森ゆり子さんのご好意により、写真に撮影させていただいた史料です。

いままで、須坂藩士を勤めた家に伝わる史料として、須坂市（須坂市立博物館）が所蔵していたのは、三家の文書だけです。丸山太郎兵衛・巨宰司・舎人・次郎本政の四代にわたって須坂藩の重役を勤めた丸山家文書（須坂市の指定文書）、藩主直虎のもと祐筆として仕えた野平野平家文書、作事方・買い物方・賄い方などとして藩に仕えた坂田近右衛門家文書です。いずれも須坂藩の歴史を解明するためには、大変重要な役割を果たしてきています。

今回ここに、須坂藩に目付役として仕えた森家の文書が加わることになりました。森権平は安政期（1854～1859）に目付役を勤めています。

森家文書の全容は次のようです。

- ① 武士として心得すべきこと（兵法・武士道など） 10点
- ② 武士としてのたしなみ（和歌など） 14点
- ③ 辞令・賞典 16点
- ④ 系図・戒名など 16点
- ⑤ 書簡 9点
- ⑥ その他（絵図・領収書など） 14点

計 79点

史料①、②、④などのように、武士としての心構え、趣味や森家に関わる系図などが多いのが森家史料の特色です。須坂藩のことあるいは須坂藩士としての動きなどを示す史料は少ないが、これを手がかりに須坂藩の歴史をより明らかにするきっかけになるのではなかと期待するところです。

### 2 森家について

森家に残された「先祖代々之記録」によると、森勘（権？）右衛門（寛政11年没）から、記されているが、それ以前の延宝5年（1677）に、森権右衛門が須坂藩4代藩主堀長門守直祐の大阪加番勤役に従って、御鉄砲役として同行しています。その後、延宝9年（1681）、天和3年（1683）、正徳4年（1714）、享保元年（1716）にも直祐の大阪加番の勤役にもなって、大阪に同行しています。いずれも御鉄砲役としてです。藩主直祐とのつながりが深いことがわかります。森家史料にも直祐（松之助）との関係を示す史料が1点みられます。

堀直武（須坂藩12代藩主、天保元年～文久2年）家中分限帳によると、森八郎が「無籍幼年者其外」の項に「高式人扶持 森八郎」として記されています。

### 3 史料の整理、文書目録の作成は主として専門員小林裕が行ないました。

平成20年4月 須坂市誌編さん室